



「大学の国際化のためのネットワーク形成推進事業」* 同志社大学の取組

● 構想の概要

*「国際化拠点整備事業(グローバル30)」は、2011年度(H23)より「大学の国際化のためのネットワーク形成推進事業」として組み立てられました。

目的および英語コース開設構想

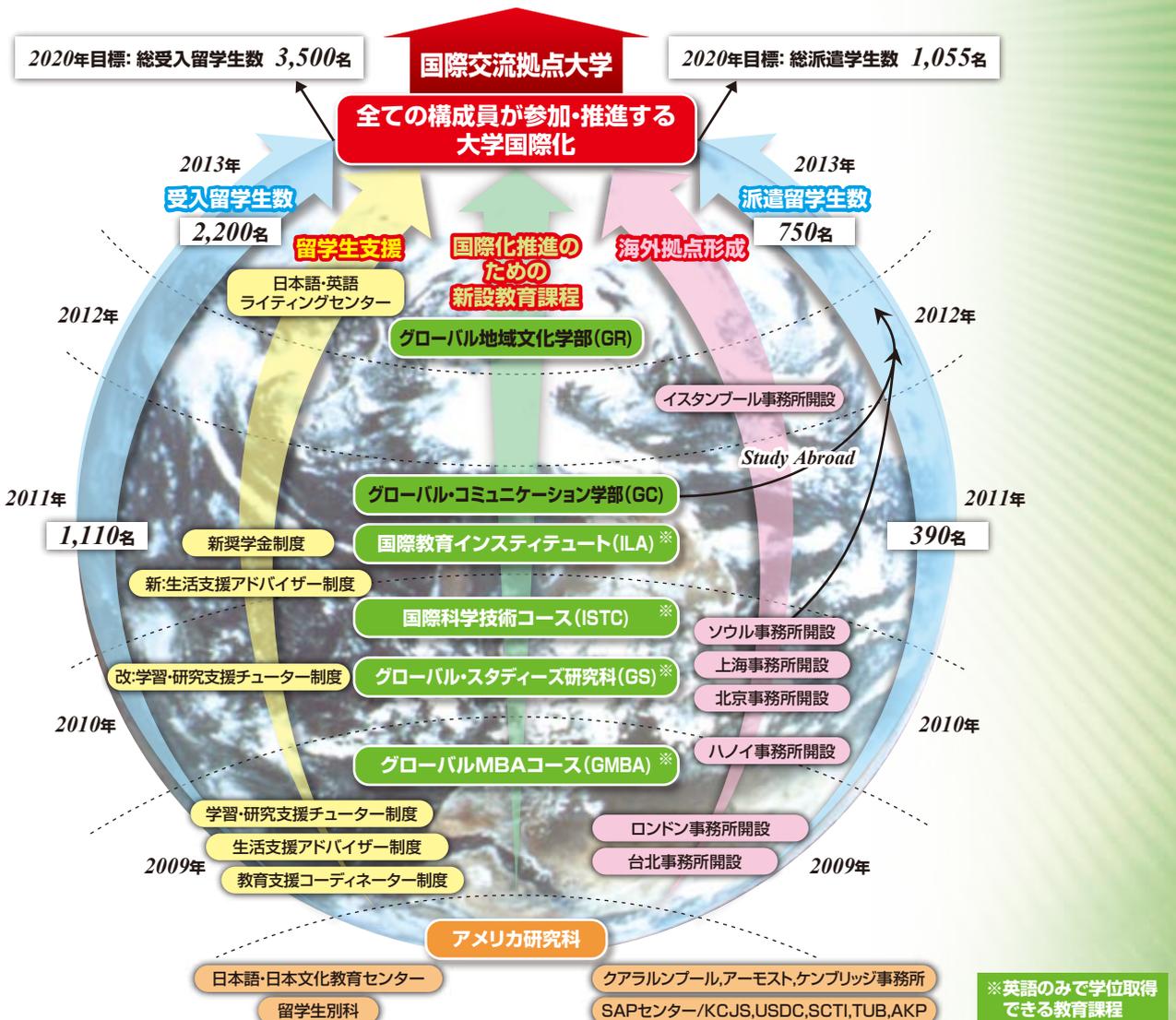
本学の教育理念の一つである「国際主義」の更なる現代的実質化を図り、同志社大学を、知と精神の国際的多様性を尊重し、global issuesの解明・解決に貢献する国際的教育研究拠点へと発展させることを目的として、本事業を実施する。具体的には、英語のみで学位が取得できるコースや留学生のための日本語コースを持った学部/大学院の開設等により国際化を押し進める。

2009年(H21)9月	専門職大学院	ビジネス研究科 グローバルMBAコース(GMBA)
2010年(H22)4月	大学院	グローバル・スタディーズ研究科(GS) アメリカ研究クラスター、グローバル社会研究クラスター
2010年(H22)9月	大学院	理工学研究科・生命医科学研究科 国際科学技術コース(ISTC)
2011年(H23)4月	学 部	国際教育インスティテュート(ILA) 国際教養コース
2011年(H23)4月	学 部	グローバル・コミュニケーション学部(GC) 日本語コース
2013年(H25)4月	学 部	グローバル地域文化学部(GR)

到達目標留学生数

既存の学部・大学院を含め、質の高い外国人留学生受入数および外国人教員数を積極的に増加させる。受入留学生数の到達目標数を、2013年(H25)までに2,200名(留学生比率7.7%)、2020年(H32)までには3,500名(同12%)とする。そのための環境整備として、海外協定校の新規開拓、留学生入学試験制度・実施体制の拡充整備を図り、留学生学習・研究支援チューター制度、生活支援アドバイザー制度等を新設、奨学金の充実、宿舍確保増も含めた留学生受入体制の整備充実を強力に推進する。

● 国際化拠点の概念図



中間評価

2011年度(H23)に文部科学省により実施された本事業中間評価において、同志社大学の取組が唯一最高ランク「S(優れた取組状況であり、事業目的の達成が見込まれる)」評価を獲得。

● 留学生受入のための環境整備

各種制度・環境整備項目

入学

海外入試制度

渡日前奨学金制度

入学試験の複数回実施、入学検定料の見直し(35,000円→10,000~15,000円)に加え、外部語学能力試験(EJU, TOEFL, TOEIC, IELTS等)の利用、オンラインレジストレーションによる出願受付、海外現地試験の同日実施、高性能テレビ会議システム等を用いた遠隔地面接の実施により**渡日前入学を可能とし**、海外からの出願者の利便性を格段に向上させた。また、英語コース(国際教育インスティテュート(ILA)・グローバルMBAコース)では**ローリングアドミッション**を導入した。

外国人留学生奨学金制度

留学生住宅総合補償制度

生活支援アドバイザー制度

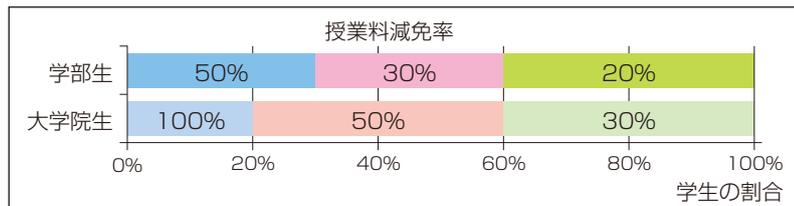
学習・研究支援チューター制度

英語によるカウンセリング体制

ハラルフード、メディテーションルーム

国際交流イベント

2011年度(H23)に新たな**授業料減免奨学金制度を導入**。これにより全留学生への奨学金給付(給付率100%)を達成し、留学生への経済的支援を更に充実させた。授業料の減免率は、学部生が20~50%、大学院生が30~100%となる。



加えて2012年度(H24)には、OECD/DACが発行するODA受給国リストに掲載される「Least Developed Countries (最貧国)」「Other Low Income Countries (低所得国)」からの外国人留学生に対する支援奨学金を新設した。

留学生数の増加に対応し、既存の寮に加えて借上げによる宿舎を拡充(2009年(H21)7月182室→2013年(H25)9月447室)したほか、留学生が民間住居への入居契約を行う際に必要な**連帯保証人を本学が担う「留学生住宅総合補償制度」**を整備し、本学の宿舎以外へ入居する留学生への支援体制も整えた。

学生同士によるサポートとして、留学生の生活面を支援する「**生活支援アドバイザー制度**」、学習・研究成果(院生)の向上を図る「**学習・研究支援チューター制度**」を導入。その他、「International Day」や「World Café」等の**国際交流イベントを定期的に企画・開催**し(2013年(H25)内に19回実施)、2013年度(H25)からは学生自身が国際交流行事を企画運営する「**学生スタッフ**」の公募も開始した。

留学生の心身の健康管理として、保健センターでの診療(内科)受診が可能なほか、米国にてカウンセラー実績を有する臨床心理士による**英語でのカウンセリング**を行っている。

その他、学生食堂メニュー等**キャンパス内表示の多言語化、ハラルフード導入、メディテーションルーム**設置など、多様な文化背景を持つ学生の受入環境を整えている。また、東日本大震災発生時の留学生への対応・支援の経験をもとに、更なる危機管理体制の整備も進めた。

在学

外国人留学生のための就職ガイド

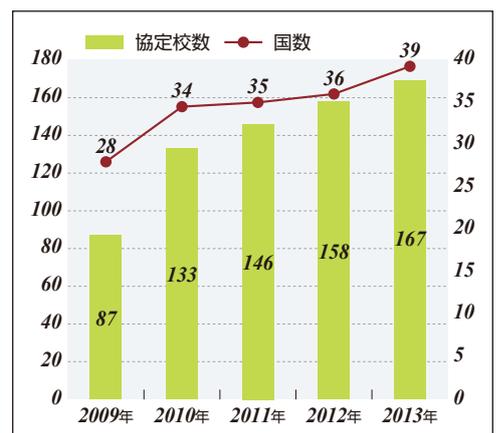
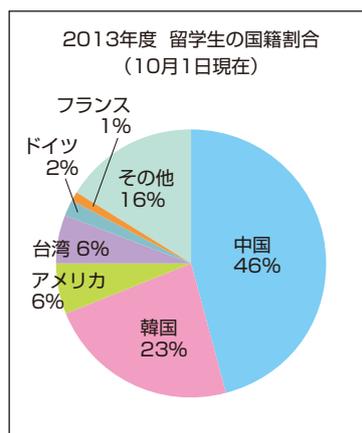
キャリア・コーディネーター

「ビジネス日本語」講座

「**外国人留学生のための就職ガイド**」冊子を多言語で作成、入学時から日本企業や日本での就職活動に係る情報提供を行い、留学生の就職に対する意識を喚起している。2013年度(H25)には、韓国で開催した父母会においてキャリアセンター職員が講演したほか、日本企業で働くOB留学生達によるパネル発表など就職情報の周知を図った。

また、高度な語学能力・社会経験を有する**キャリア・コーディネーターによる個別面談**のほか、「**ビジネス日本語**」等の**各種就職支援講座**を追加開発し、従来の就職ガイダンス、企業セミナー、**インターンシップ科目**等の充実と共に入学から就職までのトータルサポートを強化している。

就職



国際化推進への取組

海外へ向けた積極的な広報活動の展開

多くの国際化推進の取組の迅速・効果的展開のため、海外の複数地域に海外事務所・教育研究拠点設置を進め、2009年度(H21)以来、ロンドン、ハノイ、北京、上海、ソウル、イスタンブールに順次事務所を開設し、2013年度(H25)現在では**7カ国に7事務所3拠点**を構える。2012年度(H24)に事務所を開設したイスタンブールでは、2013年(H25)3月に本学として初めて海外での日本留学フェアを主催し200名を超える現地参加者を得た。

また、2013年(H25)には本学国際センターが独自のFacebookを開設したほか、ILA、グローバル・コミュニケーション学部、グローバルMBAコースもそれぞれのFacebookにおいて日英2言語で最新情報の発信を行っている。



留学生向けプログラムの開発・充実

2009年(H21)～2011年(H23)の間に、英語で学位取得可能なプログラムとして学士課程で1プログラム、博士(前期/後期)課程で3プログラム(専門職大学院を含む)、また留学生向けの学士課程プログラムとしてグローバル・コミュニケーション学部日本語コースを開設した(1ページ参照)。加えて2012年(H24)に開設した脳科学研究科でも英語で学位取得が可能となっている。短期プログラムでは、2006年(H18)より提供しているスタディアブロードプログラム(SAP)「日本語・日本文化研修(サマーセッション)」のほか、2009年(H21)からは日本語・日本文化を学ぶ海外大学の学生を対象に、京都の歴史・文化的資産を活かした半年から1年のプログラムも提供したり、個別大学のニーズに合わせた短期SAPも海外から数多く受入れている。

国内外教育機関との交流・連携等の拡大

■**大学間学術交流協定等の促進/ダブル・ディグリープログラムの開発**
優秀な留学生の受入および日本人学生の海外派遣のため、教員が積極的に海外に赴き、交流協定校を開拓。語学要件に弾力性を持たせた協定大学を開拓し、留学しやすい環境を整えた。協定校数は、2009年度(H21)と比較し2013年度(H25)でおよそ2倍に増大している。また各学部・研究科間においては**ダブル・ディグリープログラム**等の共同プログラムを開発。2014年(H26)現在、本学の理工学部・研究科および生命医科学部・研究科がエコー

ルセントラルグループ(フランス)、ESPCI(フランス)、ENSC(フランス)、ミラノ工科大学(イタリア)、西安電子科技大学(中国)、西安交通大学(中国)と、法学研究科がシェフィールド大学(イギリス)、成均館大学(韓国)と、法学部がアリゾナ大学(アメリカ)とダブル・ディグリープログラムを開始している。

■海外有力大学の日本センター(SAPセンター)の活用

本学キャンパス内には、海外有力大学が日本語・日本教育研究拠点として開設した4センター(**AKP同志社留学生センター(AKP)**^{*1}、**チュービンゲン大学同志社日本研究センター(TUB)**、**スタンフォード技術革新センター(SCTI)**、**京都アメリカ大学コンソーシアム(KCJS)**^{*2})が揃い、独自の日本プログラムを実施している。これらのセンターが提供する英語による科目は本学在学学生にも一部開放され、日本人学生の疑似留学体験の場として活用されているほか、プログラム参加留学生と日本人学生の間でランゲージエクステンションなどの交流を図りグローバルな学修環境の創出に大きく寄与している。また、SAPセンター各所長は**グローバル30外部評価委員**として毎年度本事業の進捗状況等の検証・評価を行っている。

*1 アメリカに本部を置く日本留学プログラム運営機関Associated Kyoto Program。アーモスト大学、スミス大学等、15校の名門リベラルアーツカレッジが加盟する。

*2 アメリカ14大学連盟の留学プログラム。ボストン大学、ブラウン大学、コロンビア大学、コーネル大学、シカゴ大学、エモリー大学、ハーバード大学、ミシガン大学、ペンシルヴァニア大学、プリンストン大学、スタンフォード大学、ワシントン大学、イェール大学、ヴァージニア大学が参加。

■海外優秀高等学校との連携

海外の優秀な高校生獲得を目的に、2009年度(H21)より、積極的に海外の有力高等学校と指定校推薦入学制度に係る協定締結を進め、2014年(H26)1月現在、**5カ国(韓国、中国(含:台湾)、ベトナム、フィリピン、オーストラリア)41校**と協定を締結。2011年度(H22)から2013年度(H23)の3年間で63名の学生が本制度により入学している。

■国内大学間ネットワークの推進

大学院設置の英語で授業を行う科目や留学生向け就業支援講座等を、協定大学や大学コンソーシアム京都加盟の他大学学生に開放している。また、大学間の連携強化のため、京都大学、大阪大学、立命館大学と本学の4大学で**グローバル30関西地区連絡会**を立ち上げ、共同でワークショップ、シンポジウム等を開催し、本事業での成果を広く国内の大学関係者や社会へ発信している。

学内事務組織の改組

グローバル30事業採択を機に、国際連携推進機構内に国際化推進室を設置し事業の円滑な推進を図ったほか、2011年(H23)には旧国際教育課を、教学支援を行う日本語・日本文化教育センター事務室、留学生の入試や入学後の生活支援を担当する国際センター留学生課の2部署に再編し、留学生に係る教学支援や生活支援など様々な支援体制の強化・集中化を進めた。同機構は、専任職員を2009年度(H21)10名から2013年度(H25)には26名に拡充し、その他スタッフとともに増加する留学生・派遣学生の対応、大学の国際化推進業務にあたっている。



● 事業採択後の歩み

年	月	整備した組織・制度など	開催したシンポジウム・留学フェアなど
2009(H21)年	7月	「国際化拠点整備事業*(グローバル30)」採択 *2011年度より「大学の国際化のためのネットワーク形成推進事業」	
	8月	「国際化推進室」設置	
	8月	「留学生生活支援アドバイザー制度」「留学生学習・研究支援チューター制度」「日本語アシスタント制度」導入	
	9月	【英語による学位プログラム】ビジネス研究科 グローバルMBAコース開設	
2010(H22)年	1月	ロンドン事務所設立	台湾にて「同志社大学フォーラム in Taipei」開催
	1月	外国人留学生海外指定校推薦制度を開始	
	3月	ハノイ事務所設立	「G30 ワークショップ in 同志社」開催
	4月	【英語による学位プログラム】グローバル・スタディーズ研究科(アメリカ研究クラスター、グローバル社会研究クラスター)開設	
	4月	北京事務所設立	
	4月	キャリア・コーディネーターによる英語でのキャリアカウンセリングを開始	
	6月		外部評価委員会開催(以降年1~2回開催)
	9月	【英語による学位プログラム】理工学研究科・生命医科学研究科 国際科学技術コース開設	
2011(H23)年	12月	職員対象の英文化ワーキンググループを発足(以降定期的に開催)	
	1月	G30関西地区連絡会を発足	
	1月	海外会場での外国人留学生入学試験を開始	
	2月	「同志社大学留学生住宅総合補償制度」創設	
	3月	上海事務所設立	国際高等教育シンポジウム「Faculty Development for International Student Education」開催
	4月	【英語による学位プログラム】国際教育インスティテュート開設	
	4月	【留学生対象学位プログラム】グローバル・コミュニケーション学部(日本語コース)開設	
	4月	旧国際教育課を「日本語・日本文化教育センター事務局」「国際センター留学生課」の2部署に再編	
	4月	ソウル事務所設立	
	4月	新奨学金制度導入により全留学生に奨学金給付	
2012(H24)年	7月	臨床心理士による英語でのカウンセリングを開始	
	10月	外国人留学生入学試験においてインターネット回線を利用した遠隔面接を開始	
	1月		海外指定校推薦制度による入学者父母限定「父母懇談会」を韓国にて初開催
	1月		ワークショップ「Developing English Undergraduate Programs in Japan」開催
	2月	中間評価において「S」評価を獲得	
	3月		イギリスにて「Japan Day」開催
	4月	脳科学研究科開設 *英語のみでも学位取得可能なプログラム	
	4月	最貧国および低所得国の学部外国人留学生対象奨学金を新設	
	7月	イスタンブール事務所設立	
	8月	外国人留学生入学試験におけるオンラインレジストレーション運用開始	
	9月	「グローバル人材育成推進事業(Go Global Japan:GGJ)」採択	
	10月	ハラル食の提供開始、メディテーションルームを整備	
2013(H25)年	11月		SDワークショップ「大学職員のグローバル化」開催
	12月	留学支援のために英語で対応可能な留学コーディネーターを雇用	国際教育インスティテュート「Special G30 Session」開催
	1月		全韓国人留学生(新1・2年生)の父母対象「父母会」を韓国にて初開催
	1月		国際シンポジウム「国際化時代の日本語研究と日本語教育」開催
	2月		英語による教授能力向上のためのFD研修実施
	2月		UAEにて「Japan Day」開催
	3月		イスタンブールにて「トルコにおける日本留学フェア」開催
	3月		オーストラリアにて「Japan Day」開催
	3月	留学生進路調査・生活アンケート実施、結果報告書公開	
	3月	国際センターFacebook開設	
	4月	グローバル地域文化学部開設	
	4月	今出川キャンパス良心館に「ラーニング・commons」開館	
	6月	留学コーディネーターの補助スタッフとして留学生による「留学アシスタント」や「GGJ」 Conversation Partner」を雇用	「グローバルキャリアフェア」開催(～1ヵ月間)
	7月		G30成果シンポジウム「留学生のキャリアデザイン」開催
	9月		国際シンポジウム「国際化における日本語教育—多様化する日本語学習者とそのニーズの現状から—」開催
	9月		ワークショップ「同志社大学キャンパスにおける日本語教育と多文化共生」開催(主催:TUB、共催:日文センター、AKP、SCTI、KCJS)
	10月	国際交流行事を企画運営する「学生スタッフ」公募開始	
	11月		家元による「Iemoto Lectures」を東京にて開催(～2月全4回)

